



地域連携だより

NO. 030



～ 新年のご挨拶 ～



若草第一病院 管理部 健康情報室 井上 寛

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は多大なる御支援と御指導を賜り誠に有難うございました。

平成26年度も多くの患者様をご紹介いただき、昨年度の実績を大きく上回っております。

平成25年度 約760人／月 → 平成26年度 約800人／月

昨年は診療報酬の改定や、2025年に向けた病床機能報告制度の開始もあり、多くの急性期病院にとって節目の一年となりました。登録医の先生方にとっても、影響の大きい一年であったと思われれます。当院では地域医療支援病院として、紹介と救急医療を中心に患者様に選んでいただける病院、頼りにされる病院を目指し、様々な取組みを行ってきました。

特に在宅医療介護カードの利用をしていただくことで、若草第一病院でいつでも受入を行い、今後の高齢化社会に向けて、地域の患者様がより安心して医療を受けていただける関係を築いてきたいと考えております。

地域から“頼りにされる病院”を目指して、健康情報室、地域連携課一同、力を合わせて頑張っていきたいと思っております。



高坂 岡山



中山 佐々木 山本



藤田 中松 大下

本年も何とぞよろしく御願い申し上げます。

地域連携課一同

東大阪市、八尾市、大東市の DPC病院の公開データから当院を検証



DPCとは

若草第一病院院長 山中英治

東大阪市、八尾市、大東市、この3市の東側は山を越えると奈良県です。大阪府の救急は奈良には搬送されませんので、3市の病院で受け入れます。また救急以外の患者さんは大阪市内の病院に行くこともあります。多くは近くの病院を受診されます。とくに通院が大変な高齢の方は近くが楽と仰います。

DPCとは診療報酬の定額支払い制度で、急性期病院の多くはこの制度です。ある病気で入院すると、入院日数やかかった費用にかかわらず病院に健康保険から支払われる額が決められています。ですから、費用をかけずに早く治す方が病院の収支は良くなります。DPC以前の出来高払い制度ですと、行った医療のすべてが支払われるので、過剰医療になる可能性があり医療費が増え続けるという欠点がありますので、国はDPCを取り入れました。この欧米式の制度が導入される際には、元気な若い患者さんの方が早く治るから病院が患者さんを選ぶのではないかとすることを危惧する意見もありました。しかし日本の病院は良心的で、患者さんを選んだりすることはなかったようです。

「効率性指数」と「複雑性指数」

さて、このDPCのデータは国が把握しており、国が公開して国民に情報提供をしていますので、各病院の特徴を知ることができます。病院の医療レベルを比較するには「効率性指数」と「複雑性指数」という指数が用いられます。

「効率性指数」とは、同じ病気で入院した時に、いかに早く治って退院するかという指数で、この値が高いほど早く治って退院しています。図1のグラフをご覧ください、お陰様で当院は最近5年間で、3市の中核病院のうちで最も早く退院できる病院になりました。早く退院できるとベッドが空くので、入院もすぐできて何日も待つ心配がございません。

「複雑性指数」は、名前の通りいかに複雑な治りにくい病気の方を治療しているかという指数です。この数値が高いほど、複雑な病気の治療を多く行っている病院です。これも図2のグラフをご覧ください、当院は最近5年間で、治りにくい病気の患者さんを最も多く治療している病院になりました。

実はこの2つの指数は逆になる病院も多いのです。簡単な病気ほど早く治りますので、軽症の患者さんが多いと「効率性指数」は高くなります。すなわち「効率性指数」の高い病院は「複雑性指数」が低くなる傾向があります。歩いて病院に行けるような患者さんが多いと「効率性指数」が高く「複雑性指数」が低くなります。逆に「複雑性指数」が高い病院は、救急入院など重症で複雑な病状の患者さんが入院が長引き「効率性指数」が下がりがちです。

自画自賛(手前味噌?)で恐縮ですが、当院はお陰様で「効率性指数」も「複雑性指数」も高く、重症な患者さんが多いのに、同じ病気で入院しても早く治って帰る患者さんが多いということで、なんとか地域医療にお役に立てていると職員一同喜んでおります。

今後もこのような実績に驕ることなく、さらなる医療レベルの向上のために努力する所存でございますので、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

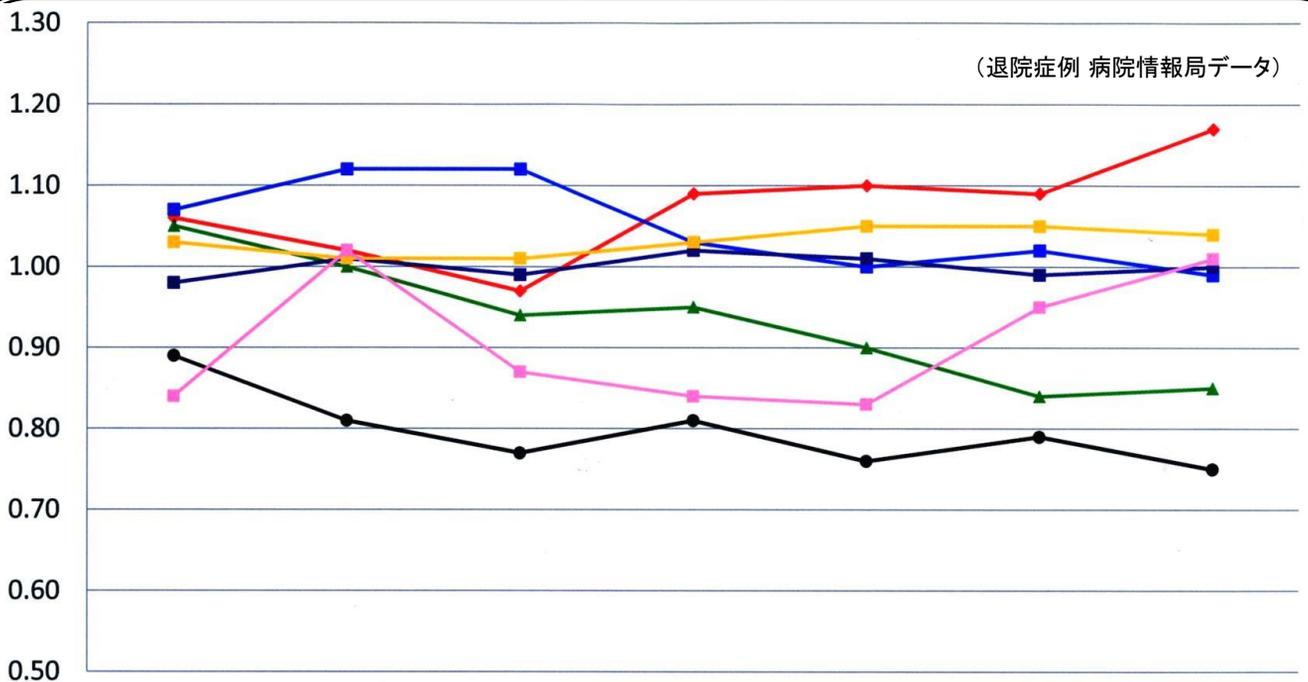


図1 中河内二次医療圏近隣 DPC対象・準備病院 効率性指数比較

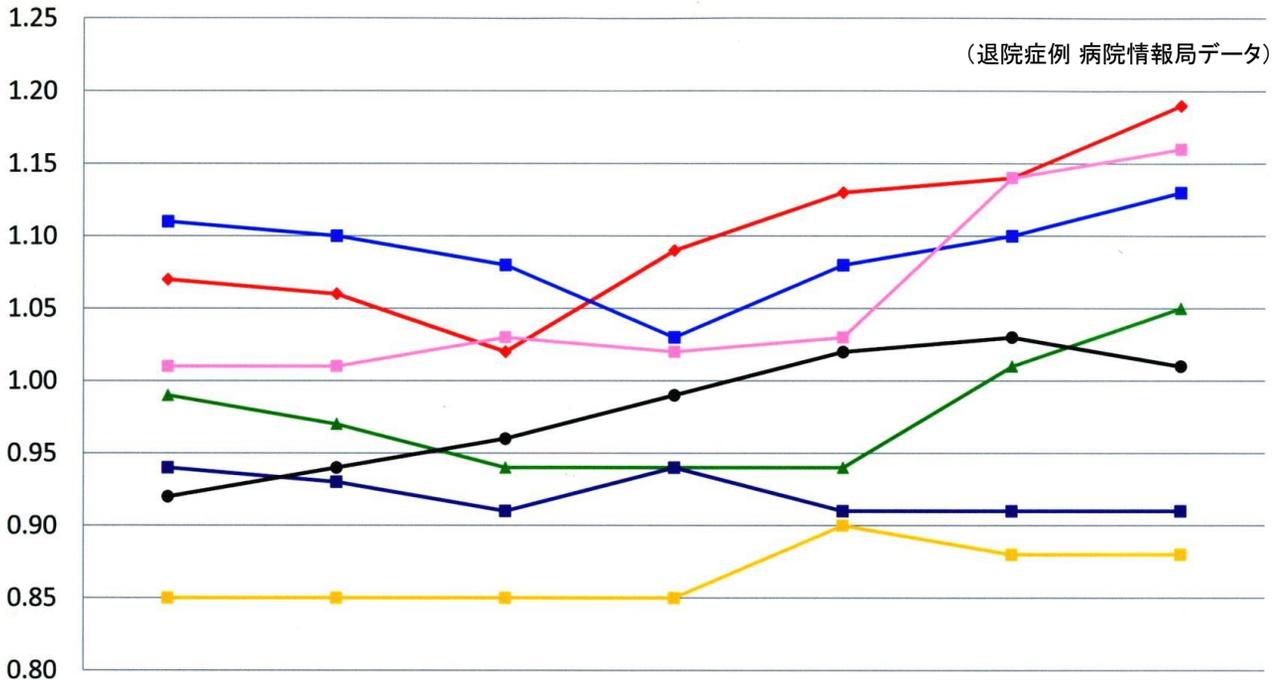


図2 中河内二次医療圏近隣 DPC対象・準備病院 複雑性指数比較